

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000734		
法人名	社会福祉法人 弘道福祉会		
事業所名	明石グループホームラガール		
所在地	兵庫県明石市林崎町3-553-7		
自己評価作成日	令和8年 3月1日	評価結果市町村受理日	令和8年6月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和8年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様に自分らしい生活を行っていただく為に日々のレクリエーションや行事に力を入れています。地域の交流では月に1度の書道教室やサロンを隣の小規模多機能と合同で開催し地域の方たちとの連携に力をお入れしています。

総合福祉施設内にあり、併設の小規模多機能型事業所と連携し、夏祭り・ラジオ体操・清掃活動・ボランティアによる書道教室・自治会主催のバザーやふれあいサロンへの参加等、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう取り組んでいる。瀬戸内海・淡路島・明石海峡大橋を眺望できる立地で、気候の良い日には、テラスや渡り廊下を活用した外気浴や歩行訓練、庭での菜園活動、海岸や近隣への散歩・神社へのお詣り・公園への花見ドライブ等、戸外で過ごす機会づくりに注力している。食事アンケートで嗜好や希望を献立に反映し、イベント食・行事食・「麺の日」・リクエストメニュー等を取り入れ、事業所でも昼食・おやつレクリエーションを行っている。各種体操・集団レクリエーション・家事作業参加を日課とし、日常生活の中で機能の維持向上ができるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 評価	第 三 者 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心、信頼、貢献」に基づき利用者様の状況を会議で確認し安心して生活していただけの用にケアしている。	法人の理念・基本方針を共有し、基本方針の中に地域密着型サービスの意義を明文化し、事業所玄関への掲示により共有している。管理者が新入職時研修で、また、施設長が毎週昼礼時に理念を説明し理念の理解を深めている。グループホーム会議時に検討する時や日々のケアの中でも、理念・基本方針に立ち戻り、理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや地域のボランティアの方の書道教室参加など交流の機会を設けています	日常的に、散歩等に出かけ、近隣の人たちと挨拶や会話を交わす機会が多い。自治会に加入し、自治会主催のバザー・ラジオ体操・夏祭りや、地域主催の「ふれあいサロン」に利用者も参加し、地域と交流している。書道教室・フラダンス・演奏・老人クラブ等ボランティアの来訪があり、利用者も参加しながら地域と交流する機会づくりに取り組んでいる。週1回、利用者とともに地域の清掃活動に参加し、施設としてラジオ体操、ふれあいサロン開催時に敷地やココナッツホールを地域に開放し、トライやるウィーク、実習生受け入れ等地域貢献に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅からGH、GHから特養とその方にあったサービスを受けれるように部署間での連携をとっています		

明石グループホームラガール

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上 に活かしている	2か月に1回小規模と開催し活動報告や 普段の様子を写真などで説明している	利用者・家族・地域代表（自治会長・民生委員・ボラ ンティア）・知見者（他事業所管理者）・事業所職員 （施設長・各事業所管理者・介護支援専門員）を構 成委員とし、併設の小規模多機能事業所と合同で 2ヶ月に1回集合開催している。グループホームから は、利用者・家族も参加している。会議では、資料配 布し、スライドを活用して、利用者状況・活動状況・ 活動予定等を報告し、地域のイベント情報・ボラン ティア活動等について参加者と意見・情報交換を 行っている。参加者との情報交換内容も議事録に記 録し、報告資料と共にファイリングし、事業所玄関の カウンター上に設置し公開している。	議事録のファイリングの整理が望まれ る。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取り組みを積極 的に伝えながら、協力関係を築くように取り組 んでいる	管理者やケアマネが市町村担当者とサー ビスを話し合い連携している	市職員も参加する明石市グループホーム小規模多 機能介護部会に参加し、市と連携している。相談・ 質問・報告等があれば、管理者・介護支援専門員等 が適宜、電話・メール・訪問等で市の担当窓口に関 い合わせ、また、市の集団指導にオンライン参加し、 適正な運営に反映している。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束を しないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、離設される入 居者様に対し玄関の施錠は行っているが フロアは自由に行き来でき散歩やレクリ エーションに参加して頂き、気分転換を図 るようにしています。	「身体拘束適正化・虐待防止のための指針」を整備 し、身体拘束を行わないケアを実践している。2ヶ月 に1回、事業所独自で、施設長・管理者・看護師・介 護支援専門員・主任等が参加して「身体拘束委員 会」を開催している。委員会では、拘束事例の現状 確認と、行動制限につながりそうな事例についての 検討等を行い、議事録を回覧し、回覧印により周知 を確認している。「身体拘束排除」に関する施設内 研修（7・12月）に管理者が参加し、グループホーム 内研修で資料を用いて講義形式により伝達研修を 行っている。事業所としての「研修報告書」を作成 し、欠席者には資料配布し、「研修実施記録（感想 文）」の提出を促している。玄関・ユニット扉は施錠し ているが、外出希望があれば、職員が近隣への散 歩・敷地内での外気浴等に同行し閉塞感を感じない よう取り組んでいる。	「身体拘束排除」「虐待防止」「権利擁 護に関する制度」「プライバシー保護」 「ターミナルケア」等の各種施設内研 修・事業所内研修について、「研修報 告書」「研修実施記録」のファイリ ングの整備と、「研修実施記録」の提出 状況の確認が望まれる。

明石グループホームラガール

自己 評価	第三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各職員が学ぶ機会を持ってもらえるように年2回の委員会を開催し事業所内での虐待が起きないように、また疑われないように気を付けている	「身体拘束適正化・虐待防止のための指針」を整備している。事業所独自の「虐待防止委員会」を、施設長・管理者・主任・当日出勤職員等が参加し年2回（9月・3月）開催している。委員会では、虐待事例（0件）の確認・不適切ケアにつながりそうな事例についての検討等を行い議事録を回覧し、回覧印により周知を確認している。「高齢者虐待防止」に関する研修を、上記と同様に、施設内研修（7・12月）に実施し、事業所で同様に伝達研修を行っている。気になる言葉かけや対応があれば、管理者が個別に助言し、グループホーム会議で注意喚起している。施設長は年1回、管理者は年2回の定期的面談、随時面談を行い相談しやすい職場環境づくりに努め、ストレスチェックの実施・法人相談窓口の設置等、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各職員が学ぶ機会を持ってもらえるように年2回の研修を行い各制度について知識を持ってもらえるように配慮している	グループホーム会議の中で「後見人の意味」資料を配布し、権利擁護に関する制度の理解に努めている。弁護士・司法書士を後見人とする成年後見制度の利用事例（3名）があり、面会対応・金銭管理資料の提供・利用者状況の報告等、制度利用のための支援を行っている。家族等から相談があれば、管理者が制度について説明している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様や入居者様に安心して過ごしてもらえるように意見交換や十分な説明ができる場を設けるようにしている	入居相談があれば見学対応し、パンフレットを基に、利用料金等を説明している。契約時には、管理者が重要事項説明書・契約書・指針・同意書等を基に説明し、文書で同意を得ている。特にリスク・入所中の注意事項等について、「入所に際してご理解いただきたい事項」を基に説明し、文書で同意を得ている。契約内容改定時は変更内容を説明した文書を作成して郵送し、質問等があれば個別に説明し、文書で同意を得ている。	

明石グループホームラガール

自己 評価	第三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員 ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを 運営に反映させている	利用者様や家族様から意見があった際は 管理者や担当者から他の職員に話をし今 後の業務につながるようにしている	家族の面会・来訪・電話連絡の際に近況を報告し、 家族の意見・要望の把握に努めている。利用者担 当職員が、毎月個別のお便り(写真添付)と「明石グ ループホームラガール新聞」を郵送し、利用者個々 の近況や行事・生活の様子を伝え、意見・要望が出 やすいよう情報提供している。把握した家族の要望 は「連絡ノート」・「グループホーム会議」で共有し、 計画や個別支援に反映している。利用者の要望は 日々の会話の中で把握に努め、「連絡ノート」・個別 の「介護記録」で共有し個別に対応している。運営 推進会議に家族・利用者の参加があり、職員や外 部者に意見・要望等を表す機会を設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている		月1回、ユニット合同の「グループホーム会議」を開 催し、全利用者についての情報共有、検討が必要な 利用者のカンファレンス、業務についての検討を行 い、職員の意見を利用者支援・業務改善等に反映 できるように取り組んでいる。議事録を回覧し、回覧 印により会議内容の周知を確認している。日々の検 討事項があれば、出勤職員で検討し、管理者が決定 事項を「連絡ノート」に記録し共有している。管理者 は定期面談(年2回)・随時面談を行い、職員の意見 を個別に聴く機会を設けている。施設合同の各種委 員会に事業所から委員が参加し、職員の意見を運 営に反映している。法人の相談窓口を設置し、法人 に直接意見を伝える仕組みもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やり がいなど、各自が向上心を持って働けるよう職 場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課の際に職員と面談し、 意見を聞いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受け る機会の確保や、働きながらトレーニングして いくことを進めている	それぞれ係を担当し職員一人一人にあつ た配置をし個々の能力を生かせるようにし ている		

明石グループホームラガール

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月法人による研修に参加したり、部会に参加した時は同業者との意見交換を行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の様子を記録し職員同士で共有し、できるだけ実現できるようにしている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	月に1度、グループホーム新聞を作成し家族様に送付し面会時には近況を報告するようにしている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問歯科、リハビリ指導等を取り入れ入居者の状態を把握する様に務めている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などできる範囲で入居者様と一緒に 行い困った時などは相談し人生の先輩として接するようにしている		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症流行時以外の面会は入居者様の居室でして頂き、落ち着いた雰囲気での交流が持てるように支援し、その際に入居者様の昔の趣味や好みをお聞きしている		

明石グループホームラガール

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や自宅へ帰りたいと希望があった際は可能な限り実行できるようにし、家族様や友人との交流ができるようにしている	家族との面会、キーパーソンの上承のもとに友人・知人との面会に対応し、居室でゆっくり面会できるよう配慮し、馴染みの人との関係継続を支援している。「ふれあいサロン」参加も、馴染みの人との交流機会になっている。また、海岸・公園・喫茶店・商店街等、馴染みの場所に出かけられるように個別の外出支援を行っている。家族と馴染みの場所に出かけられるように、家族との外出・外泊・外食も支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事を一緒にして頂き入居者様が孤立しないよう様にし季節の行事も入居者様同士の交流になり交流の場になるようにしている		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設に移動しても連絡を取り状態を確認を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話で得た情報を把握し職員同士で共有できるようにしている。把握が難しいは表情などを確認し気づいたことなどを記録し拒否する	利用者個々の思いや暮らし方の希望について、入居時は、家族記入の「興味・関心チェックシート」、事業所作成の「暮らしの情報シート」を活用し把握している。入居後は、利用者との日々の会話で把握した内容を、「連絡ノート」や個別の「介護記録」に記録し共有している。入居後に把握した情報は、内容に応じて「暮らしの情報シート」に追記して共有している。入居時・入居後に把握した情報は、人物像の把握や個別支援に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、家族からの情報等を基に把握に努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや家族様に聞いた情報から生活歴の確認を行っている		

明石グループホームラガール

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状況を把握し記録に残し職員同士で共有するようにしている		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や利用者の意向を聞き何か問題が生じた時には看護や往診医からの意見を把握し介護計画に生かすようにしている	入居前面談で作成した「暮らしの情報シート」・「アセスメントシート」、家族記入の「興味、関心チェックシート」の情報を基に、サービス担当者会議を開催し、初回の「介護サービス計画書（以下「計画」）」を作成している。長期目標期間を1年、短期目標期間を6ヶ月とし、必要時には随時、定期的には短期目標に合わせて6ヶ月毎に、「計画」の見直しを行っている。毎月、「モニタリング表」でモニタリングを行っている。「計画」見直しの際は、「モニタリング表」でモニタリング・評価を、「アセスメントシート」で再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催している。サービス担当者会議は、家族の参加が可能な日に開催し、家族・本人・管理者・看護師等が参加している。利用者・家族等の意向、訪問診療医等関係者の意見（事前聴き取り含む）は、会議録の検討内容・結論欄等に記録している。「計画」の短期目標番号と連動した日別の「ケアチェックシート」を用いてモニタリングを行い、職員に計画内容を周知している。サービスの実施状況を「介護記録」・「バイタル表」・「食事表」等に記録している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し入居者様の状態を記録に残し職員同士が情報交換し小さな変化でも気づけば報告し必要なら計画の見直しを行うようにする		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々でのニーズにはできる限り答えるよう他の部署都連けし答えられるようにしている		

明石グループホームラガール

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の野力を生かし維持してもらえるように安全対策を徹底し、その人らしい生活ができるようにしている	
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、往診医による診察を行い希望者には訪問歯科に来てもらっている	契約時に事業所の医療連携体制を説明し、利用者・家族の希望に沿った受診を支援している。現在は利用者全員が協力医療機関のかかりつけ医を希望しており、月2回内科医の訪問診療、希望に応じて月1回訪問歯科を受けられる体制がある。他科受診については外部受診とし、基本的には家族が同行し、必要に応じて、かかりつけ医からの紹介状等で情報提供を行っている。訪問診療時は基本的には施設兼任看護師か介護支援専門員が立ち会い、訪問診療時の情報提供や結果を「看護記録」に記録している。訪問診療・外部受診の記録は、システム内の「介護記録」に記録し、共有している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態を確認し看護や往診医と情報を共有し適切なケアができるようにしている	
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が早期退院できるようにケアマネや病院、家族様との話し合いを行い退院後も混乱されないようにスタッフ間での連絡をとり可能な限り支援している	入院時は、看護師が作成する「看護サマリー」で、医療機関に情報提供している。入院中は、介護支援専門員が地域医療連携室や家族と電話により情報交換し、早期退院に向け連携している。退院前カンファレンスがあれば介護支援専門員が参加し、利用者の状況を把握確認し、退院後の支援方法等の検討を行っている。退院時には「看護サマリー」で情報提供を受け、グループホーム会議の中でカンファレンスを開催し、退院後の状況に応じて介護計画を見直している。入院中に把握した情報はシステム内の「介護記録」に記録し共有している。

明石グループホームラガー

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りや今後の支援内容などを家族様と話し合い、状態に変化があったときは連絡を取り可能な限りの支援を行っている	契約時に、「グループホームにおける重度化対応指針」・「看取りに関する指針」を説明し、文書で同意を得ている。また、「介護・看護についての意思」で意向確認を行っている。重度化を迎えた段階で、主治医・家族・事業所で話し合いの場を設け、主治医から家族に状況の説明を行い、再度家族の意向を確認している。看取り介護の希望があれば、「看取りについての同意書」で同意を得ている。サービス担当者会議を開催し、看取りに向けた「介護サービス計画書」を作成し、家族・主治医・施設兼任看護師・事業所職員が連携し、チームで支援に取り組んでいる。4月に「ターミナルケアに関する研修」「精神的ケアに関する研修」を施設内研修で実施している。	「重度化対応指針」「同意書」の保管等、書類の整理が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の手順を確認し行動できるようにしている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行いその内1回は消防隊員立会いの下で行っている。その際消防隊員からの指摘を纏め各部署に配布している	年2回、施設合同の実践的な訓練を利用者参加で実施し、施設内の連携体制を確認している。今年度は令和7年5月(夜間想定)、令和8年2月(夜間想定)に避難・消防訓練を実施した事を書面で確認した。毎年1回は消防署が立ち合い、令和8年2月の訓練で具体的な指導を得ている。訓練後は「消防訓練実施記録」に実施内容と反省点・改善点を記録し、職員の周知を図っている。令和8年1月には「災害時における緊急時の対応に関する研修」「BCPの災害に備えた机上訓練」を実施している。災害に備えて運営推進会議等で地域と情報共有して協力体制があり、施設にはAEDを設置し、地域の福祉避難所に指定されている。災害に備えた非常用食料・備品類等は、小規模多機能型施設と合同で施設内に保管し、栄養課が管理している。	「消防訓練実施記録」を回覧後は、回覧印等により周知を明確にすることが望まれる。事業所が洪水浸水想定区域・土砂災害警戒区域等ハザードマップ掲載区域内に立地するか確認し、必要に応じて避難確保計画の作成・避難訓練の実施を検討してはどうか。

明石グループホームラガール

自己 者第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇のマナーの資料を用意し職員にも周知してもらっている。普段の言葉使いにも注意している	「プライバシー保護」「接遇」「認知症ケア」「倫理及び法令遵守」等の研修の実施や、法人作成の「接遇マナー」に関する資料配布等により、人格尊重や誇り・プライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。「虐待防止委員会」で現状確認や検討を行い、また、管理者が業務（入浴・排泄介助等）の中で職員に注意喚起・助言を行い、人権やプライバシーへの配慮を徹底するよう周知を図っている。Instagramや「ラガール新聞」への写真・映像等の使用について、契約時に「個人情報使用同意書」に沿って口頭で説明し、了解を得ている。	写真・映像の使用について、「個人情報使用同意書」に追記し、同意を明確にすることが望ましい。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が難しい方の表情も確認し入居者様の意見を聞きながら把握している			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが可能な限り個人に合うように努め入居者様らしい生活が送れるように務めている			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えを行ったり希望時に理容室にお連れし支援しています。			

明石グループホームラガール

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食レク一緒にを出食を作ったり毎日のお米炊きや盛り付けを入居者様と一緒にしている	炊飯は各ユニットで行い、施設内の厨房で調理された食事を盛り付けて提供している。利用者個々の状況・病態に応じた食事形態に、厨房が対応している。献立に季節感や行事食・イベント食の工夫がある。施設栄養課が年1回「食事アンケート」を行い、利用者の嗜好・希望をリクエストメニューや麺の日(月1回)等に反映している。可能な利用者が、日常的に、米とぎ・盛り付け・食器拭き等に参加できるよう支援している。昼食レクリエーションの日・おやつレクリエーションの日を月1回ずつ設け、利用者も調理に参加できるよう支援し、誕生日にはデコレーションケーキでお祝いする等、食事を楽しめる機会づくりに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量を記録の残し水分量の低下等がある場合は補助食品等を提供し、月に1度は管理栄養士の指導を行ってもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けを行い、自身で出来る方は自身でして頂き、難しい方は介助している		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しその人にあった時間に声かけし難しい方は職員が付き添い個々の利用者に応じた介助を行っている。	「排泄表」で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、適宜、声かけ・誘導を行い、日中はできる限りトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間は安眠・安全に配慮し、利用者個々のニーズに応じて対応し、全床に見守りセンサーをつけ、夜間帯の排泄支援に活用している。検討事項があれば、都度検討して「連絡ノート」で周知して対応したり、グループホーム会議で検討する等、現状に適した介助や排泄用品の使用が迅速に行えるよう取り組んでいる。各居室にトイレが設置されており、基本的には居室トイレを使用し、状況に応じて共用トイレを使用している。居室トイレはプライバシーに配慮された環境であり、ドアの開閉や誘導時の声かけ等についてもプライバシー配慮への周知を図っている。	

明石グループホームラガール

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはヨーグルトを食べて頂きできる範囲で体操をして頂き、自然排便の為の支援をしている	
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定日はあるが、拒否や体調不良の場合は変更など行い職員が支援し安心して入浴を楽しんでいただけるように支援している	「入浴表」を作成し、基本的には週2回入浴できるよう支援し、利用者の体調・希望・気分に応じて日時を調整する等、柔軟に対応している。実施状況は「入浴実施表」・「バイタル表」で確認している。一般浴槽での個浴で、一人ずつ湯を入れ替え、個々のペースでゆっくり入浴ができるよう支援している。浴槽での入浴が困難な場合は、シャワー浴・足浴で対応し、状況に応じて、併設の小規模多機能型居宅介護施設の準天然温泉の大浴場で二人介助で対応する等、個別に対応している。同性介助の希望には同性で対応し、入浴拒否がある場合は時間変更や声かけ等を工夫し、入浴機会の確保に努めている。浴室の窓から外の景色が見え、菖蒲湯・ゆず湯で季節感を取り入れる等、入浴がより楽しめるよう支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせ臥床時間を設け夜は入居者様に合わせ居室に戻ってもらったり空調調整を来なっている	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の日付や名前を確認し、職員が手渡しで服薬介助を行っている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読んだり編み物をして頂いたり自分の時間を大切に過ごして頂けようにしている	

明石グループホームラガー

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるよに季節の行事や外出行事を計画し参加していただいている	天候の良い時期には、近隣や海岸への散歩を日課とし、個別に買い物にも出かけられるよう支援している。1階リビングにテラスに出る階段やスロープも設置され、戸外に出て気分転換しやすい環境である。ココナッツホール前のウッドデッキや渡り廊下での外気浴、敷地内の花壇やプランターの菜園活動、洗濯物干し等、戸外で過ごす機会づくりに取り組んでいる。近隣神社へのお詣り、観梅ドライブ・花見などの外出行事も実施し、自治会主催のバザー・ふれあいサロン・夏季の駐車場でのラジオ体操等にも参加している。また、家族と協力しながら、家族との外出・外食・外泊も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいが家族様から預かっているので外出行事等で好きなものを選んで購入していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方は自由に家族様と電話していただき、ない方は希望時に施設の電話を使っている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアでは入居者様が作成した作品を展示し掃除や換気は毎日行い快適に過ごして頂いている。	リビングは窓からの自然光で明るく、瀬戸内海が眺望でき、開放感がある。空気清浄機・空調により、快適な環境を整備している。テーブル席・畳ベンチ・大型テレビを、利用者の動線や状態を考慮して配置し、居心地良くつるげる環境づくりを行っている。各ユニットのリビングや廊下に、利用者と共同制作した季節の作品や行事写真・ラガー新聞・書道・カレンダーを掲示し、季節感・生活感が感じられる。可能な利用者が、米とぎ・盛り付け・洗濯物干し・洗濯物たたみ・菜園活動に参加できるよう支援し、生活リハビリにつなげている。口腔体操・動画による体操・身体を使った集団レクリエーション等を日課とし、楽しみながら機能低下予防ができるよう取り組んでいる。渡り廊下で小規模多機能型事業所の2階デッキと連結されており、ココナッツホール・ウッドデッキ・渡り廊下も共用空間として活用している。	

明石グループホームラガール

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアで1人で過ごせる場所は少ないので居室で過ごして頂けるように配慮し、入居者様同士の関係に配慮している。	
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人差が利用していた物を持参していただき、家具や小物等も持ち込まれています。写真や身近に飾り安心して過ごして頂けるように配慮する	居室には洗面台・トイレ・クローゼット・ベッド・プライバシーカーテン等が設置されている。収納箆箭・テレビ・椅子・仏壇・時計等、馴染みのものや大切なものが持ち込まれ、家族写真や塗り絵カレンダーが飾られ、居心地良く過ごせる環境づくりを行っている。編み物・お茶セット等、利用者の趣味の物も持ち込まれ、その人らしい生活が継続できるよう支援している。ネームプレートに手作りの季節の作品を掲示し、部屋間違いの防止に努めている。利用者担当職員を配置し、家族と連携を図りながら衣替えや環境整備を支援している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリー化し個々の状態に合わせ職員が付き添い転倒防止に務めている。	